

# 大津企業景況調査報告書

(第60回)

平成25年 1月～ 3月期 実績

平成25年 4月～ 6月期 見通し

大津商工会議所

# 大津企業景況調査について

(平成25年1月～3月期)

## 1. 調査方法

大津商工会議所会員企業 100 社に F A X 方式による調査

## 2. 調査企業

産 業 別	調査対象企業数	有効回答企業数	回 収 率
建 設 業	20社	12社	60.0%
製 造 業	10社	9社	90.0%
卸 売 業	10社	8社	80.0%
小 売 業	30社	22社	73.3%
サービス業	30社	19社	63.3%
合 計	100社	70社	70.0%

## 3. 調査期間

調査対象期間は平成25年1月～3月とし、調査時点は平成25年3月1日とした。

## 4. 調査データについて

調査の結果を示す指数として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」の DI 指数は、3ヵ月前との比較である。

「取引の問合せ」、「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は、過去比較でなく水準を聞いたものである。

## 景況感は底入れしつつある

平成 25 年 1 月～3 月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数として DI 指数（景気動向指数）を採用している。DI 指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

### 全体

景況は、全体の業況判断 DI（前年同期比）が 1 年 9 ヶ月間▲30～▲40 で推移していたが、今四半期は▲23 に改善し、景況感は底入れしつつある。特に製造業では約 2 年ぶりにプラスに転じた。これは、円高修正が進み生産に上昇の動きが出てきていること等によるものとみられる。建設業も改善している。一方、小売業、サービス業の回復は遅れている。これは、個人消費の基調は依然厳しいため等とみられる。

先行きは、業況判断 DI が▲11 にさらに改善し、景気回復が期待されている。特に小売業、サービス業は大幅に改善を見込み、株高等により消費マインドの回復による改善期待がみられる。一方、製造業、卸売業は回復が足踏みすると見込んでいる。

#### □ 業況判断 DI（前年同期比）は改善に転じる。特に製造業が大幅に改善

「前年同期比でみた業況判断 DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、1 年 9 ヶ月間 ▲30～▲40 で推移していたが今四半期は▲23 に改善し、景況感は底入れしつつある。特に製造業では約 2 年ぶりにプラスに転じた。これは、円高修正が進み生産に上昇の動きが出てきていること等によるものとみられる。建設業も改善している。一方、小売業、サービス業の回復は遅れている。これは、個人消費の基調は依然厳しいため等とみられる。

#### □ 売上 DI（前年同期比）は大幅改善。全ての業種で大幅改善し建設・製造業は増加に

「前年同期比でみた売上 DI(全体)」(「増加」－「減少」)は、前四半期の▲45 から今四半期▲21 と大幅に改善した。業種別にみると、建設業と製造業が大幅に改善して増加に転じ、他の業種も軒並み改善した。

#### □ 採算 DI（前年同期比）は改善。製造業以外はすべて改善

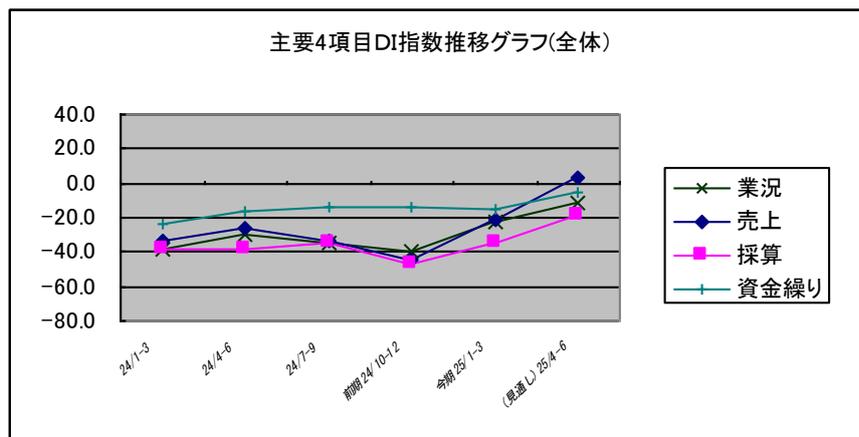
「前年同期比でみた採算(経常利益) DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期 ▲47 から今四半期▲34 と改善した。業種別にみると、前四半期に好転した製造業がやや悪化した他は、すべての業種で改善した。

#### □ 資金繰り DI（3 ヶ月前比）はほぼ横ばい。業種によってバラツキ

「3 ヶ月前比でみた資金繰り DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期の▲15 から今四半期▲16 とほぼ横ばい。業種別にみると、製造業および小売業でやや悪化し、その他の業種は改善した。

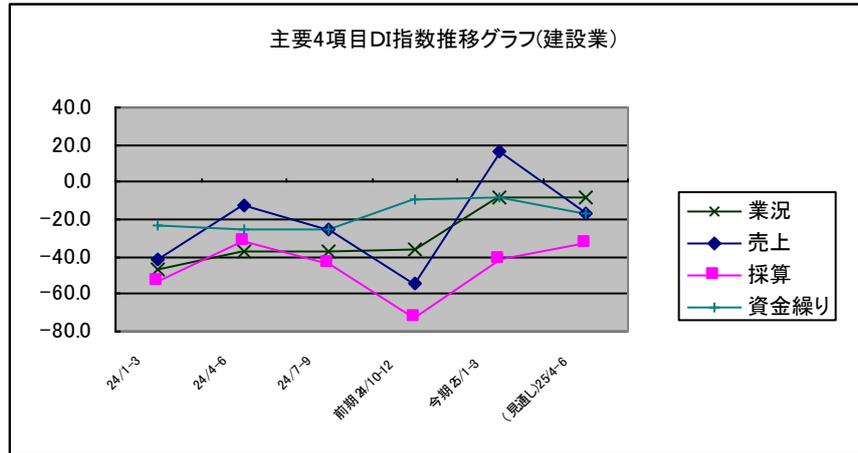
#### □ 従業員 DI（前年同期比）はやや人員不足。ただし卸売業等はやや人員過剰

「前年同期比でみた従業員 DI(全体)」(「不足」－「過剰」)は、前四半期の+4 が今期+3 とやや人員不足が続いている。業種別にみると、建設業、製造業が人員不足、小売業が適正人員、卸売業、サービス業は人員過剰になっている。



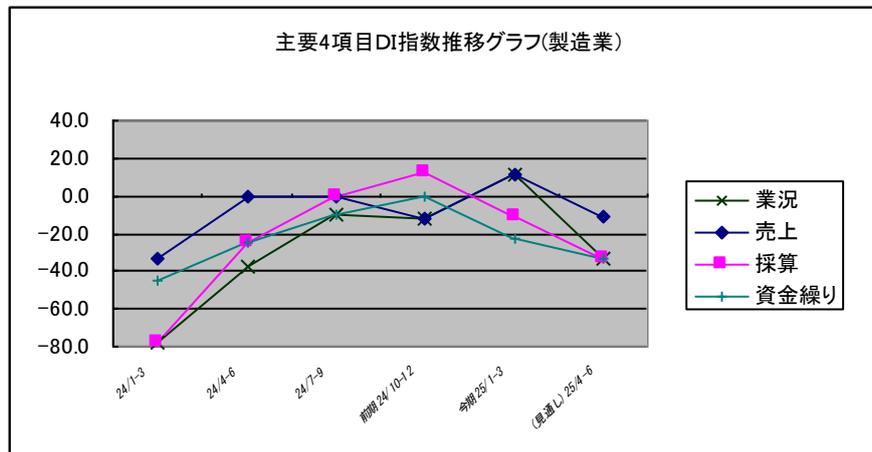
## 建設業

DI指数をみると、「業況」は前四半期▲36から今四半期▲8と大幅に改善した。これは、民間設備投資や住宅投資、公共投資で前向きの動きがみられることによるものとみられる。個別指標をみると「売上」が前四半期の▲55から今四半期+17に大幅に良化して増加に転じ、かつ「採算水準」は前四半期の▲18から今四半期+8と黒字に転じた。「取引の問合せ」は前四半期の▲55から今四半期▲8と改善し、「人員」は前四半期の+9から今四半期+25と不足感が高まっている。



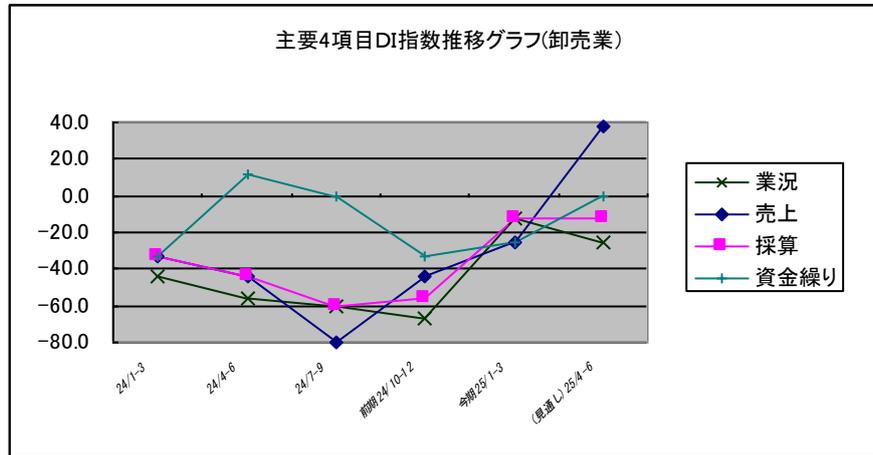
## 製造業

DI指数をみると、「業況」は前四半期▲13から今四半期は+11と大幅改善しプラスに転じた。これは、円高修正等による受注増加の効果が出始めているのではないかとみられる。「売上」は前四半期の▲13から今四半期は+11と増加に転じ、「採算水準」は黒字基調である。「従業員」は前四半期▲13とやや人員過剰から今四半期は+11と人員不足に転じている。



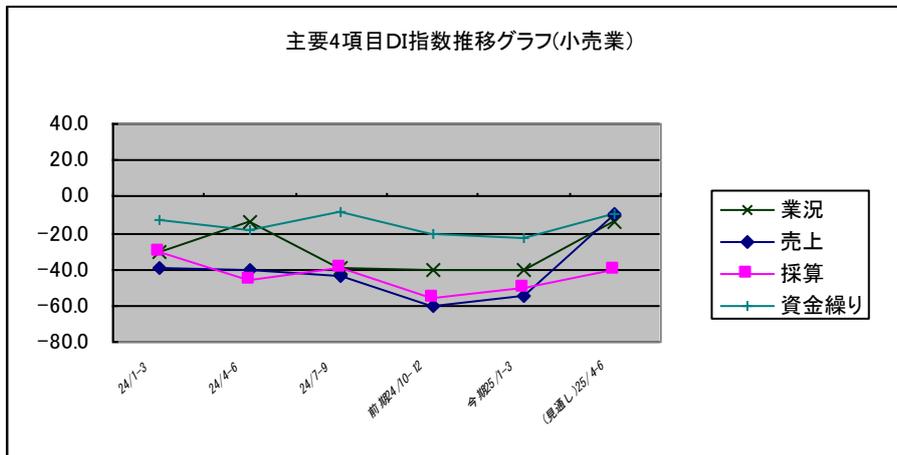
### 卸売業

DI指数をみると、「業況」は前四半期の▲67から今四半期は▲13と大幅に改善した。「売上」は前四半期の▲44から今四半期▲25と改善し、「採算」が前四半期の▲56から今四半期は▲13に改善して「採算水準」は経常赤字から収支トントンに改善した。「資金繰り」も前四半期の▲33から今四半期は▲25とやや改善した。



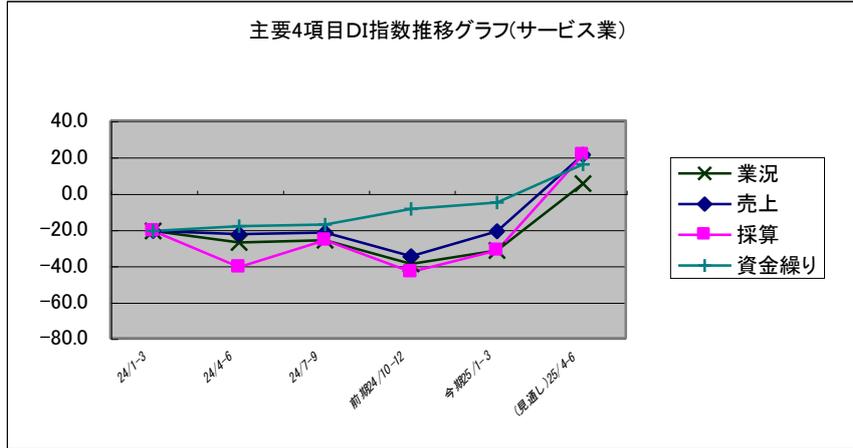
### 小売業

DI指数をみると、「業況」は前四半期の▲40から今四半期は▲41とほぼ横ばいである。これは、個人消費の基調は依然厳しいことや円安で輸入品の仕入価格が上昇しているが、販売価格に転嫁が難しいため等とみられる。個別指標をみると「売上」は前四半期の▲60から今四半期▲55とやや改善した程度であり、「採算水準」は前四半期の▲28から今四半期▲32に却って悪化している。「取引の問い合わせ」も「資金繰り」も大きな変動はない。「従業員」は前四半期の+8(人員不足)から今四半期は適正人員に戻った。



## サービス業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲39 から今四半期は▲32 とやや改善した。他の業種に比べて回復の足取りが重いのは、小売業と同じく、個人消費の基調が依然厳しいこと等によるとみられる。「売上」は前四半期の▲35 から今四半期▲21 とやや改善したが、「採算水準」は前四半期の 0(収支トントン)から今四半期▲5 に却って悪化している。「従業員」は前四半期の+4(人員不足)から今四半期▲5 とやや人員過剰になった。



3ヵ月後のDIの見通しについては、業種によりまだら模様になっている。

全体の「業況」は、今四半期の▲23 から来四半期にはさらに▲11 に改善する見通し。個別指標でみると「売上」が24ポイント良化して+3 と増加に転じ、「採算」も15ポイント良化して▲19 になり、「採算水準」が2ポイント良化して▲7 になる。「取引の問い合わせ」も15ポイント良化して▲16 となっている。

「業況」見通しを業種別にみると、今四半期に大幅に改善した建設業、製造業、卸売業のうち経済対策による公共事業もある建設業は横ばいを見込んでいるが、電気料金の値上げ等もあり、製造業、卸売業は反落を見込んでいる。一方、今四半期に回復が遅れた小売業、サービス業は、来四半期に大幅に改善するよう見込んでいる。これは、円安、株高等による景況感の改善が消費者心理に及んでくると期待されているものとみられる。

3ヵ月後の設備投資については、設備投資計画があると回答した企業の割合は前四半期から4ポイント増加して今四半期は24%となった。小売業が11ポイント増加して27%、卸売業が4ポイント増加して38%となるなど、販売業が堅調であった半面、製造業が▲5ポイント減少して33%、建設業が▲1%減少して17%となった。投資企業の投資内容の割合は更新投資が50%で最も多い。投資方針は、「今後の景気に拘らず計画通り」とする企業が82%になった。これは更新投資の比率が高いためと景気回復が期待されているためとみられる。

(MBA・中小企業診断士 田中清行)

## (今の経済情勢に対する意見)

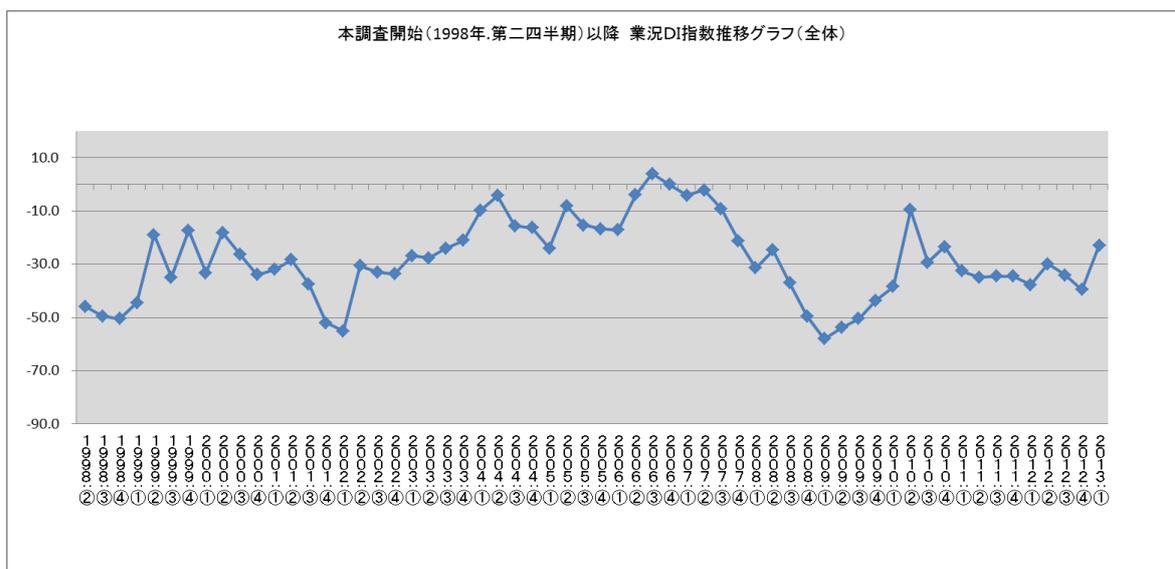
今の経済情勢に対する意見を寄せた企業は4社であった。

- 送料なしで送ってくるアマゾンで買っている自分自身の消費行動の変化から、利便性の付加価値では難しい。しかし、それに変わる存在価値をどう構築していくか、難しい。そういう時代の変化を感じながら光を求め、努力を続けたいと思います。意見じゃなく、感想で失礼しました。
- 太陽光パネル事業において、補助金の削減が心配だ。電気事業界の先行きがわからない。
- 若干明るい兆しが出てきたが、消費マインドが冷え込んだ状態のままであり、消費者が安心して支出、消費に向けられる環境を創出してほしい。
- 期間
  - 24年10月～12月景気動向（変動なし）
  - 25年1月～4月景気動向（期待高まり）
  - 25年5月～8月景気動向（実現の可能性あり）
  - 25年9月～12月～26年3月景気動向（実現して、かつ、将来に向かって安定、継続して欲しい）以上のようなスパンが中小企業者の思いではないでしょうか。

DI 指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見通し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見通し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見通し
全 体	▲ 22.9	▲ 11.4	▲ 21.4	2.9	▲ 34.3	▲ 18.6
建 設 業	▲ 8.3	▲ 8.3	16.7	▲ 16.7	▲ 41.7	▲ 33.3
製 造 業	11.1	▲ 33.3	11.1	▲ 11.1	▲ 11.1	▲ 33.3
卸 売 業	▲ 12.5	▲ 25.0	▲ 25.0	37.5	▲ 12.5	▲ 12.5
小 売 業	▲ 40.9	▲ 13.6	▲ 54.5	▲ 9.1	▲ 50.0	▲ 40.9
サービス業	▲ 31.6	5.3	▲ 21.1	21.1	▲ 31.6	21.1
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	
	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見通し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見通し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見通し
全 体	▲ 8.6	▲ 7.1	▲ 31.4	▲ 15.7	2.9	2.9
建 設 業	8.3	▲ 16.7	▲ 8.3	0.0	25.0	0.0
製 造 業	11.1	▲ 11.1	▲ 22.2	▲ 44.4	11.1	0.0
卸 売 業	0.0	0.0	▲ 25.0	▲ 12.5	▲ 12.5	0.0
小 売 業	▲ 31.8	▲ 13.6	▲ 40.9	▲ 27.3	0.0	0.0
サービス業	▲ 5.3	5.3	▲ 42.1	0.0	▲ 5.3	10.5
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	1-3月期 動向	4-6月期 見通し	1-3月期 動向	4-6月期 見通し	1-3月期 動向	4-6月期 見通し
全体	▲ 15.7	▲ 5.7	▲ 2.9	0.0	4.3	7.1
建設業	▲ 8.3	▲ 16.7	0.0	▲ 8.3	8.3	0.0
製造業	▲ 22.2	▲ 33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
卸売業	▲ 25.0	0.0	▲ 25.0	▲ 25.0	0.0	0.0
小売業	▲ 22.7	▲ 9.1	0.0	0.0	9.1	9.1
サービス業	▲ 5.3	15.8	0.0	15.8	0.0	15.8
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	



縦目盛り軸は、全業種の業況D I 指数を表しています。横目盛り軸は、調査年を西暦で、調査時期を①から④で表しています。

調査時期の詳細は以下のとおりです。

- ①…第一四半期 (1月～3月)
- ②…第二四半期 (4月～6月)
- ③…第三四半期 (7月～9月)
- ④…第四四半期 (10月～12月)

## 大津商工会議所

〒520-0806 大津市打出浜2番1号

コラボしが21・9F

TEL 077-511-1501

FAX 077-526-0795

URL <http://www.otsucci.or.jp/>